羽生市長賞

その税は誰のために

羽生市立東中学校
二年　蓮見　友里乃

八月七日にアメリカと日本の間で新たな関税措置が発動されました。この措置により、日本の関税率は十五パーセントに引き上げられました。四月になってから度々ニュースで流れていた「関税」について私は詳しく知らなかったので調べてみることにしました。

今回のアメリカ合衆国の関税率の引き上げは、アメリカの労働者達を守るための措置ということでした。自由な貿易の中では、海外からの輸入品が強く、アメリカ国内で作った物が中々売れないそうです。特に日本については、自動車の影響が強いことが分かりました。そして、アメリカは日本以外の多くの国に同じように関税の引き上げを迫っていました。中には、四十パーセントを超える国もあり、驚きでした。日本とアメリカは十五パーセントで合意しましたが、この「合意」というのは、本当に難しいことだと思います。なぜなら、そこに利害関係がありその後ろには守るべき国民がいるからです。社会の歴史の授業で「関税自主権の回復」について学びましたが条約改正への道のりが長かったことをよく覚えています。私達一人一人の意見が違った時に合意形成をすることだって難しいのに、それを国家規模で行うなんて想像がつきません。きっと両国の首脳陣は連日頭を悩ませていたことでしょう。それでも双方が歩み寄り合意できたことは本当にすばらしいことだ

と思います。一方で問題もまだまだ残っています。製品が値上がりすることで輸出側は売れなくなる、輸入側の国民が手に入れにくくなるといった問題も考えられます。そうすると、そもそも何のために関税をかけたのか分からなくなってしまいます。むしろ、今後の動きが重要なのではないでしょうか。

国同士の「関税」となると、少し遠い話のように聞こえますが私達の身の周りでも似たような出来事はあります。一つは「地産地消」です。「地産地消」とは地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費することです。私の住む羽生市は米がたくさんとれます。しかし、他の地域からの米がたくさん入ってくると羽生市の米は売れません。そのせいか最近では田んぼや農家さんの数が減ったように思います。そのような中で市としても生産者である農家を守るために、市の税金で様々な支援をしています。私がいた小学校では、毎年羽生市で生産された「特別栽培米」を買ってもらい、家庭科の調理実習で使っています。特別栽培米は化学肥料を減らして作られているので、体に優しいそうです。このような良い物を一生懸命作っている農家さん達を守る取り組みは、ぜひ続けていってもらいたいと思います。そして、皆の笑顔あふれる羽生市がずっと続いていくとうれしいです。

私は「関税」について調べることで、税とはお金や数字のやりとりだけでなく、その後ろにある「人の思い」がこもったものであることを強く実感できました。